（十一）稲取・市、ぼうされ

昔から天狗にまつわるお話は、いろいろと伝わっています。その中で、稲取では市太郎という子供が稲取岬で体験した「市、ぼうされ」というお話が伝わっています。

ある日、市太郎と妹のおさわの二人は、竜宮神社のある稲取岬で遊んでいました。ところが、急に日が暮れてまっ暗になってしまったので道が見えなくなり、家に帰れなくなってしまいました。二人は怖くなって動けなくなり、その場で泣くばかりでした。

するとどこからか天狗がやってきて、「どうした。」と市太郎に話しかけました。市太郎は、怖かったのですが、自分と妹の名前や、急に暗くなって家に帰れなくなったことなどを泣きながら天狗に話しました。

それを聞いた天狗は、「そうか、それはかわいそうに。よしよし、もう泣くな。おれが家まで連れて行ってやろう。」と言って二人の子供に大きな背中を向けると「市、ぼうされ。さわ、ぼうされ。」と子供たちを背中におんぶしました。天狗が「目をつぶれ。」というと、二人は目をぐっとつぶりました。そして、気がつくと二人は、自分たちの家の近くの道に立っていたそうです。

竜宮神社のある稲取岬には、このような不思議なお話がいくつか伝わっています。